



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第 8 号
令和 元年
10月28日

===教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』===

秋らしい気候になりました。2週間ほど前の台風19号による大雨で、多くの河川の堤防が決壊し大きな被害がありました。これ以上、悲しむ人がないようにと祈るばかりです。11/7(木)は、美山中学校区音楽会です。4年生児童が参加します。がんばる姿を多くの方に見ていただけたら幸いです。

安心して生活できる美山小に

「全国でいじめ最多54万件、3割増」

10/18付新聞各紙には、「いじめ最多54万件、3割増」との見出しがあります。この数字の根拠は毎年度末に文部科学省が全国全ての学校に対して行う「児童生徒の問題行動・不登校調査」の結果です。よって冒頭の数字は、H30年度の結果というわけです。もちろん美山小でも今年4月初旬に回答しています。

○54万件という数字をどう理解する？

いじめの認知件数自体は、5年ほど前から急激に増えています。これは、大津市の中学生いじめ自死と「いじめ防止対策推進法」の施行により、いじめの定義が変更になったことや軽微な事案もカウントするようになったことによると考えられます。4年前は20万件未満なので、この4年で2.7倍となっています。4年間で、子どもたちが急にいじめをするようになったとは考えられないため、数え方の違いによる増加と言えます。この54万件という数字は100人あたり4人がいじめの被害者になったことを意味します。まさしくいじめは、どの学校でも、誰にでも起こり得ると言えます。

○小中による認知件数の違いから

いじめ54万件の内訳は、小学生が約42万件、中学生は約10万件です。単純に中学生の数は小学生の約半分ですが、いじめ認知件数は小学生の約1/4です。学年が上がると、いじめは見えにくくなり、いじめられた子が声をあげなくなる、あげにくくなることを示しています。低学年児童が、些細なトラブルでも「○○ちゃんが××した」と訴えるのに対し、高学年児童や中学生はそうしないことが多いものです。

○美山小の実態と指導は

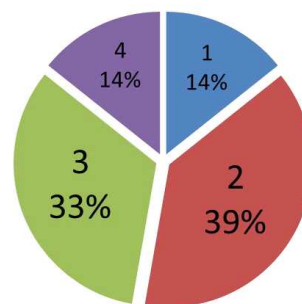
いじめにかかわるアンケート調査は毎月行っています。気になる回答があれば個別に話を聞

き、指導すべき内容であればその都度指導しています。該当保護者にも連絡しています。しかし、アンケート自体完璧な把握方法ではありません。前述したように、高学年になるほど、事態が深刻なほど言い出しにくい事実があります。

アンケートと並んで、日常の子どもの様子を注意深く観察して得られる情報も大切です。毎朝玄関で挨拶をしたり、下校時に見送ったりする短時間にも様々な姿が見えてきます。私たち美山小の教師は、表面的な「大丈夫」の向こうにあるつらさや笑顔の背後にある絶望を見抜き、心ない言動に心を痛める児童を放置しない決意で指導にあたっています。

○「安心して生活できる美山小」アンケート

安心して生活できる学校になっているか？



10月に5・6年生を対象にアンケート調査を実施しました。左のグラフはその結果です。6月の結果と大きな変化はありませんでした。半数近く

1安心 2ほぼ安心 3やや安心でない 4安心でない の児童が「安心できない」と答えています。理由は、「けんか・悪口・暴言・あだ名・ろうかを走る」など様々です。一方よくなった点では、「呼びかけが増えた・授業中の態度がよくなった」などの嬉しい変化も聞かれました。現状をいい方向に変えるためには、教師の指導と同方向での子ども同士の関わり合いが大切と考えています。11月は、より安心して生活できる学級にするため仲間に関わる月と考え、よい関わりを見つけ、学級の成長につながる言動を認め、喜び合える月にしたいと考えています。 (校長 河村 一彦)